

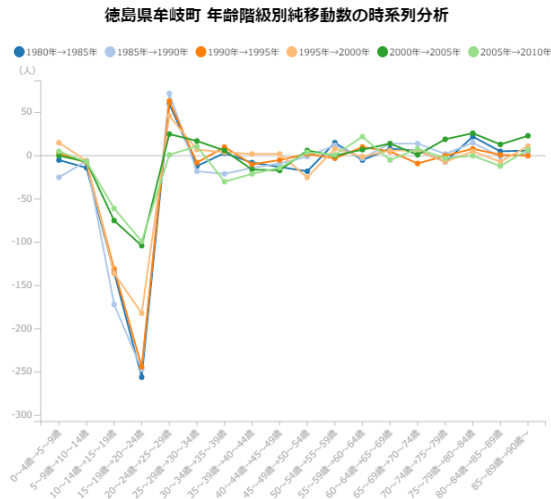
タイトル 社会教育プログラムにおける人材育成を通じた地方創生の可能性

山本将也 (NPO 法人ひとつむぎ)

Keyword : 社会教育、地方創生、大学生、キャリア教育、社会人基礎力

【問題・目的・背景】

1. 牟岐町が抱える人口上の課題



図表1：年齢階級別純移動数の時系列分析[1]

牟岐町は徳島県南部に位置し、2010年時点で人口4826人。老年人口の割合は41.5%であり、急速に少子高齢化が進行している。

図表1は、牟岐町の年齢階級別の純移動数の時系列分析である。牟岐町内に高校・大学が存在しないため、高校進学以降において大幅に人口が流出している。また、2010年時点での町外転出した人の大学卒業時における回帰率は、0.41%である。

2. 牟岐町が抱える教育上の課題

人口減少に伴い牟岐町では、保育所、小学校、中学校が1か所に集約化し、校種間、学年間の有機的な連携を図り、教育の質向上を目指す「パッケージスクール」を実践しているが、生徒数の減少は、教科指導や部活動等の学校運営に影響を及ぼしている。

また、前述のように牟岐町内には高校がなく、中学生卒業後は町外の高校に分散して進学するため、地域との関わりは中学卒業とともに急激に希薄になる。中学卒業までは固定した人間関係の中、地域に生まれながら成長してきた子どもたちには、高校進学と同時に勉強、進路選択、人間関係等の大きな壁が待ち受けている。

3. 課題に対する取り組み経緯

牟岐町教育委員会では、平成26年度「牟岐の子ど

もを育てる会」を設置し、地域全体で議論を行い、「牟岐の子どもたちに、学校では体験できない多様な体験、多くの人との出会いを体験させることにより、生き抜くための力として、コミュニケーション力(社会人基礎力)を身に付けさせたい。」との意見がまとめられた。この意見を実践するにあたり、小中学生との「斜めの関係」のパートナーとして大学生が主体であるNPO法人ひとつむぎが支援にあたることになった。

【取り組み内容】

1. シラタマ学級の概要

「シラタマ学級」は、小中学生を対象にしたキャリア教育プログラムである。2015年3月16日から同年9月20日に至るまで全10回、小中学生計44名に対して、牟岐町教育委員会とNPO法人ひとつむぎが共同で実施した。参加生徒は、自らイベントを企画し、地域・学校・教育委員会など地域全体でその運営支援に関与した。



図表2:シラタマ学級の様子

2. 運営手法

(ア) 行政・NPOの役割分担及び優位点の融合

本プログラムは、行政とNPO法人ひとつむぎが役割を分担して運営された。生徒と直接かかわる場の運営は大学生が行う一方、地元関係団体や学校側との折衝といった大学生の後方支援を牟岐町教育委員会は行った。このように、役割分担を行うことによって、より効果的な運営を実現した。

(イ) 組織文化としての「受容と肯定」

本プログラムは、原則的にワークショップ形式で実施し、大学生がファシリテーターとして場の運営を行った。その際に、生徒の発言を受容・肯定することによってより発言しやすい場づくりを行った。

3. 評価手法

評価手法に関しては、経済産業省が提唱している「社会人基礎力」の3つの能力及び12の能力要素を活用し、参加生徒のうち中学3年生13名に対して、活動の事前・事後の変化を明らかにするためのアンケート調査を行った。経済産業省が作成した「学生のレベル別行動事例」[2]を配布し、それを参考に「社会人基礎力レベル評価基準表」を用いて生徒が、受講前と比較し、どの程度能力が向上したかに関して自己評価アンケートを行った。

【取り組みの結果】

1. 参加生徒の社会人基礎力の向上と変容

事後アンケートによって、3段階評価で平均0.46ポイント上昇がみられた。(図表3)

能力	能力要素	変化
前に踏み出す力	主体性	+0.6
	働きかけ力	+0.5
	実行力	+0.6
考え抜く力	課題解決力	+0.2
	計画力	+0.3
	創造力	+0.6
チームで働く力	発信力	+0.3
	傾聴力	+0.3
	柔軟性	+0.7
	状況把握力	+0.3
	規律力	+0.7
	ストレスコントロール力	+0.5

図表3：プログラム前後の社会人基礎力の変化

2. 牟岐町の「ローカルハイスクール」の構想化

本プログラムにより、参加生徒の社会人基礎力の向上がみられたが、高校進学に伴う町外への進学・就業を機に、町や地域との関わりが希薄になり、過疎化を加速させる悪循環の解決には不十分である。

そこで牟岐町は、「ローカルハイスクール」と称した「マナビ」のプラットフォームの作成することにより、シームレスな関係性を築き、「新たな人の流れ」を生み出し、悪循環を断ち切って好循環へと変化させていく試みをスタートさせた。具体的には、月に1回に町内外の社会人や大学生を招く相談カウンターや長期休暇中に宿泊型セミナーを実施し、参加高校生の進路選択や職業選択を幅広い視野で主体的に行えるような支援を行うこととした。

3. 牟岐町の交流人口の増加(特に若年人口)

シラタマ学級およびローカルハイスクールの実施により、取り組みに参画する大学生・社会人の牟岐町を訪れる人数および頻度が上昇している。

2015年4月1日～翌年3月31日までで事業に関与するため牟岐町を訪れた大学生の総数は34名、

延べ人数では126名、社会人の総数は10名、延べ人数では、21名となっている。

大学生の平均訪問回数は3.7回であり、最多訪問回数は23回である。

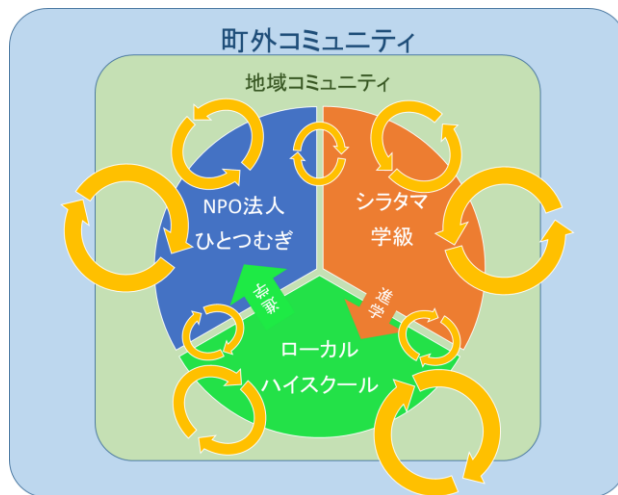
【考察・今後の展開】

1. 「人材育成・交流プラットフォームを通じたまちづくり」の可能性

牟岐町はシラタマ学級やローカルハイスクールといった取り組みによって教育課題の解決を行うのみならず、その取り組みに町内だけでなく、町外の人材も積極的に登用することで、結果的に人材育成・交流のプラットフォームを整備してきた。

NPO法人ひとつむぎの大学4年生のAさんは、「卒業後も継続的に牟岐町にかかわりたい」とインタビューで回答した。このように、牟岐町に継続的にかかわり、支援を行いたいと考える関係者は数多い。

町内外の人材が継続的に人材育成に関与、交流することで、牟岐町は新たな「人の循環」と「マナビ」を創出し、課題解決を行っている。この取り組みは、既存の産業・定住人口重視のアプローチから人材育成・交流人口をベースとした新たなまちづくりのアプローチの可能性を示しているといえるであろう。



図表4：牟岐町で目指す人材育成・交流プラットフォーム

【引用・参考文献】

[1] 地域経済分析システム (resas)

<https://resas.go.jp/population-society/#/movement/36/36383/2/1/2014/5.333900736553437/41.42090017812787/142.29371418128918>

[2] 経済産業省「今日から始める社会人基礎力の育成と評価」

<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/h19referencebook/h19referencebook.pdf>